

授業科目名	【G】	研究会 I・II	区分	必修	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
科目区分	専門科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	政治学・国際関係論に関する問題等について考察する				担当者	福島 都茂子		
授業概要	【概要】	資料や文献を正しく読みこなす力を身につけ、国内政治や国際政治に関する幅広い知識を身につける。政治学や国際関係論に関するテーマ、あるいは現在起こっているさまざまな社会問題等についてグループ・ディスカッションを行う。履修者は、各自が関心のあるテーマで、1人ずつ全員の前で発表する。発表後は、履修者全員でそのテーマについて議論し、問題の解決方法等について考察する。また、履修者はレポートを作成し、提出する。						
	【到達目標】	資料や文献を正確に読みこなす力と、現在の政治や国際情勢、社会問題や時事問題に関する知識を身につける。また、それらをもとに自分の意見を分かりやすく表明する能力や、相手の意見に反論する能力を身につけ、議論等を通じて、問題の解決方法を考察する力を習得する。また、大学生としてふさわしい文章やレポートを書く能力を身につける。						
履修条件	特になし							
アクティブラーニングの方法	【○】	事前学習型	【○】	反転授業	【○】	調査学習	【-】	フィールドワーク
	【○】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【○】	ロールプレイ
	【○】	プレゼンテーション	【○】	模擬授業	【-】	PBL	【-】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)						
他科目との関連性	「政治学入門」「国際関係入門」「政治学 I・II」「国際関係論 I・II」を受講済み、あるいはこれから受講することが望ましい。							
教科書	特になし。必要に応じて資料を配布する。							
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。							
評価方法	積極的な発言等授業への参加態度 (50%)、課題 (50%) で評価する。							
フィードバック方法	原則として授業内に行います。質問や問い合わせ等はメールまたはClassroomのコメントで随時受け付けます。							
評価基準	授業に積極的に参加 (発言等含む) し、課題を達成するとともに、学習した内容をよく理解し身に付けた者はその程度に応じて「S」または「A」、不足がある者はその程度により「B」または「C」とし、参加度または達成度が著しく低い者はその程度に応じて「D」または「E」とします。なお、欠席の多い場合や課題未達成などの場合は「F」とします。							

授業 科目名	【G】 研究会 I・II	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
		必 修				
授業内容	<p>政治学や国際関係論に関する問題点や、現在の社会問題、時事問題に関するテーマを各自が選び、それについて調べ、順番に発表を行う。質疑応答を経たのち、そのテーマに関して履修者全員でディスカッションし、問題の具体的な解決方法などを考察する。履修者は発表した内容を元にレポートを作成し、提出する。また、グループ・ディスカッションやロールプレイなども行う。</p> <p>&lt;アクティブラーニング&gt; この科目では、発表の際には履修者による相互評価も行う。たとえば、ある人が作成した資料について他の履修者に改善提案をしてもらったり、授業中の発表を聞いた人たちにその発表の出来栄を採点してもらったりするので、自分が資料作成や発表を担当しない回も含めて、常に主体的な姿勢で学修に取り組むことが必要となる。また、ディスカッションやロールプレイなども行う予定であるため、履修者は全員積極的に発言する必要がある。</p>					
予習内容	発表者は発表準備をすることが必須です。発表者でない人もテーマに関する下調べが必要となります。また、レポート作成には相当の準備時間が必要です。毎回90分程度の予習時間が目安となります。					
復習内容	その日学んだ内容を復習する、その日議論した内容の中で分からないことなどがあれば調べるなど、毎回90分程度の復習時間が目安となります。					
その他	特になし					